

【統合水資源管理のあり方】

- 水には様々な役割が存在する。水は人々が生活し、発展するうえで欠かすことのできない資源であるとともに、その地域の環境を構成する重要な要素である。
- 現在、世界中において、水に関する深刻かつ複雑な問題が生じており、この解決を図るためには、水資源に関する全ての要素を統合的かつ包括的な視点で考慮する統合水資源管理の確立が必要である。
- 統合水資源管理とはひとつの計画を策定することではなく、統合的な視点で、より良い水資源管理を目指し努力を行うプロセスである。
- 各国、各地域にはそれぞれの地理気象条件、水使用の歴史、地域の文化・慣習があり、これらを背景とする様々な水に対する価値観が存在する。また、国や地域により経済的な発展状況も様々であり、それらの実情と価値観が尊重されなければ、実効性のある適切な統合水資源管理の確立は困難である。
- このため、適切な統合水資源管理とは、ひとつのルールで決められるものではなく、ましてや他国の制度を押しつけられるべきものでもない。統合水資源管理とは、各国、各地域の特徴に基づいて、独自に確立されるべきものである。
- 統合水資源管理の実現には、適切な法制度、行政制度、実施体制および組織が必要である。しかしながら、これらは、必ずしも、統合されたひとつの法制度、行政制度、組織の実現を必要とするものではない。逆にそれでは極めて非現実的なアプローチになってしまう場合があり、各法律、制度、組織間において公平な調整が図られるシステムを確立することが重要である。
- 統合水資源管理を進めていくうえで、各国、各組織間の協力体制の確立は大変有益であり、地理気象条件や水利用において、類似した状況、経験を有する国や組織による地域ネットワークを通じた相互協力を確立することが非常に重要である。

【アジアモンスーン地域の水問題】

- アジアモンスーン地域には、日本、朝鮮半島、中国（西側内陸部、黄河流域およびその周辺地域を除く）、東南アジア全て、ネパール、ブータン、バングラデッシュ、スリランカ、デカン高原東部、インドの南西海岸地域を含む。この地域の年間降水量は、世界全体の平均年間降水量1000mmよりも多く、降水量の日ごとのばらつきも大きい。また、季節風の影響により一年で雨季と乾季ははっきりと分かれており、その水は主に水稻農業に使われており、灌漑農作率は高い。
- NARBOが活動対象としているアジアモンスーン地域は、世界の人口の60%以上に当たる33億人が居住する人口密集地域であり、その水使用量は世界全体の50%を占めているために、この地域の水問題を解決することで世界の安定に極めて大きな

貢献ができる。

- ・ アジアモンスーン地域の人口はさらに増加を続けており、都市部においては、人口集中による水不足、洪水被害の増大、河川の汚濁などの問題が発生している。
- ・ アジアモンスーン地域は一般的に降水量の多い地域であるが、年間降雨量の70%は雨季に集中する傾向がある。このため、この地域の河川は、一年を通じて流量の増加、減少が激しく繰り返される。一方、モンスーンアジア地域の多くでは、氾濫源である沖積平野に都市が形成されている。このため、これらの都市においては、河川流量の増減に伴って、洪水と渇水の両面の水問題を抱えている。
- ・ アジアモンスーン地域においては、古くから水利用の大部分は水田稲作農業に集中しており、現在でも大量の水がそのために利用されている。一方、人口の増加、経済の発展に伴い、都市部を中心として水道用水、産業用水の需要が急激に増加しており、伝統的な灌漑用水の大量利用との間に需要と供給の不和が生じている。

【アジアモンスーン地域における統合水資源管理の重要点】

- ・ 洪水問題と河川の水不足という問題が併存するアジアモンスーン地域における統合水資源管理の中核は、河川の総合的かつ継続可能な管理であり、この問題を解決するためには、非構造的対策とともに、貯水池の整備など構造的対策が必要である。
- ・ しかしながら、これらの対策は環境に影響を与える可能性があり、対策の実施にあたっては、環境の保全が十分考慮されなければならない。
- ・ アジアモンスーン地域においては、インドネシアバリ島の”Subak”やスリランカの“カスケードシステム”などのように、灌漑のための伝統的な水利用の秩序が形成され、地域文化の構成要素ともなっている場合が多い。そのため、統合水資源管理の確立にあたっては、地域の伝統的な水に関する秩序が十分に考慮されなければならない。
- ・ 水は人々が生活するうえで必要不可欠な基本的資源であり、全ての人々に必要な量が供給される必要がある。
- ・ 水の用途には河川環境用水、灌漑用水、水道用水、工業用水、発電などがあり、これらは、流域の上下流全てにおいて変わらない。このため、各セクター間、各地域間の衝突を解決するために、公平な水利用のシステムを確立する必要がある。

【RBO設立の必要性】

- ・ 統合水資源管理は、適切な最低単位レベルで各流域に確立されるべきものであるが、そのためには水資源管理の実務を行うRBO（流域機関）の設立が必要である。また、RBOが自らの役割を果たしていくためには、政府のサポートが必要不可欠であり、さらに公衆の関与も必要である。
- ・ RBOの役割は、水資源の適切な管理を通じて地域の安定、発展を実現することである。

り、国民や地域住民からの信頼を受けるための努力が求められる。

- ・ R B O は、統合水資源管理を実行する組織的枠組の主要構成要素となる必要がある。
- ・ R B O は、流域における統合水資源管理を行うためのプロフェッショナルとして、水資源管理、施設管理に関する十分な予算と人員、さらにはそのための能力を持っていなければならない。このため、能力開発は極めて重要である。

【N A R B O の設立】

- ・ アジア地域の統合水資源管理の確立に向けての課題解決には、R B O、政府関係機関、ナレッジパートナー、国際協力機関の間における情報と経験の交換、および能力開発のための共同の努力が不可欠である。しかしながら、アジア地域においては、この役割を果たすネットワークが存在していなかった。
- ・ 2 0 0 4 年 2 月に Batu-Indonesia において、アジアモンスーン地域における水資源関連機関が共同して N A R B O を設立した。N A R B O の目標は、各国、各地域における適切な統合水資源管理の確立のために、R B O をサポートすることである。
- ・ N A R B O は下記に重点を置いた活動を行うこととする。

1. 流域管理機関、政府水部門、地域の主導的水関係機関における、統合的水資源管理に関する啓発と認識喚起
2. 参加組織間における、統合水資源管理に関する情報、良好実践事例、得られた教訓の共有

このための主な方法は、統合水資源管理情報交換のためのデータベースおよびウェブサイトの運営、ニュースレターの E メールによる送付およびウェブサイトへの掲載、ワークショップの開催などである。

3. N A R B O メンバーの水統治の改善に対するサポート

これには、統合水資源管理のための実行可能な政策、制度、法体系の整備、および行動計画の作成を含む。

4. 統合水資源管理を実践するための R B O の能力開発

このための方法として、主として職員交換や参加組織による研修などがある。

5. 統合水資源管理を改善するための、R B O に対する技術的助言

この助言は、水資源施設の計画、保全、開発、水資源施設の適切・効率的な維持管理に関するものとする。

6. 国際河川流域における水資源管理の改善のための地域協力の醸成

【すでに完了した N A R B O 活動】

1. N A R B O ウェブサイトの開設（日本、2 0 0 4 年 6 月）

2. NARBO Newsletter のメール配信（日本、2004年6月）
3. IWRM のための第1回トレーニング（タイ、2004年7月）
4. NARBO ウェブサイトに関するワークショップ（タイ、2004年8月）
5. ベンチマーキングのための協議会（インドネシア、2004年11月）
6. Twinning プログラム（2004年11月）

- ・ NARBO は、ある特定の機関が他の特定の機関に対して行う援助ではなく、NARBO メンバーが相互に、自らの経験を提供しつつ、その活動を通じて主体的に情報の蓄積を行い、自らの能力を向上させることを目的としている。したがって、NARBO メンバーはこのネットワークの意義を踏まえ、オーナーシップの精神をもって、積極的にNARBO 活動に参加していく必要がある。
- ・ NARBO は世界の安定と実りある未来のために、アジアにおける水問題の解決に貢献したいと考えている。そのためには、RBO の役割は水資源の適切な管理を通して地域の安定性と発展を実現することであり、さらに地域の住民に自信をつけさせるために彼らの参加を促進することも必要である、ということを理解する必要がある。この希望を実現させるために、世界中からの協力はアジアにとって非常に有難いものである。

【インドネシア NARBO 事務局の設立】

- ・ インドネシアの RBO が NARBO に加わることで、国際的協力が促進され、それが RBO 間における相互作用をもたらし、それぞれの長所を生かした水資源管理および開発が可能になることが期待されている。
- ・ インドネシアは NARBO の中でも最大のメンバー数を有するため、2004年4月にインドネシア NARBO 事務局が設立された。この事務局設立の目的は、政府の方針に基づき NARBO アクションプラン2004-2005の実現に向かって、インドネシア国内の NARBO メンバー間の交流と協力を促進するための調整を行う、ということである。